

歩く会でごみ拾い

中央高 茨城空港までの15キロ

県立中央高（小美玉市張星、江原忠宏校長）は6日、全校生徒約570人が参加する学校行事の「歩く会」に併せてごみ拾いのボランティア活動を行った。

同高の歩く会は3年に1度開催している伝統行事。精神力・忍耐力の強化、集団行動による規範・規則の重要性を学ぶこと、市内の魅力の再発見などが目的で、27回目

し、ごみ袋の提供、ごみの回収・処分などは市が協力した。

生徒は午前9時に学校を出発。夏のような日差しに汗をかきながら、約4時間かけて沿道に落ちている空き缶、ペットボトル、たばこの空き箱などに気を配りながら歩みを進めた。市によると、回収したごみの量は約30キロに上った。

ゴール地点では小美玉ふるさと食品公社（額賀茂樹社長）のスタッフが、参加生徒にヨーグルトドリンクを提供してねぎらった。1年の海老原陽樹さん（16）は

「疲れたけど、友達と一緒に活動できてよかった。ごみが結構あったので、これ

からも積極的に拾っていきたい」と感想を話した。

（黒沢保史）

令和7年6月11日付茨城新聞に掲載されました。



た。地元のも協力しようとして行っ環境美化にうと今回初めてごみ拾いを企画

沿道のごみを拾いながら茨城空港を目指す生徒ら＝小美玉市佐才